

*Organo de Hokkajda Esperanto-Ligo*

# LEONTODO

N-ro 55

11 - 1974

## Renkontiĝo kun Esperanto

Ter ISHIGURO

Karaj geamikoj, ĉu vi scias, kiam komenciĝis la organizita E-movado en Japanio? Jes, en 1905. Kaj mi naskiĝis en la sekvanta jaro, 1906. Kiam mi estis ĉirkaŭ 8-jara, t.e. antaŭ 60 jaroj, mi legis en infana gazeto (eble Yonen Sekai aŭ io simila) rakonton, en kiu blanka urso de norda poluso renkontas pinguinojn el suda poluso. Ili interamikiĝas, kune ludas kaj pasigas feliĉan tempon en paca kunvivado. Ĉar ili bone komprenas unu la alian, parolante Esperanton. Dum la homoj havas diversajn malsamajn lingvojn. De japanoj ne povas kompreni landanojn, kiuj parolas fremdan lingvon. Sed kiam vi legantoj pli kreskos kaj lernos Esperanton, la komunan al ĉiuj homoj sur la tero, vi ŝiros multajn amikojn el la tuta mondo. Mi ne precize memoras, sed la enhavo de la rakonto estis proksimume tia, kaj tio forte impresis min. Mi, tiam naŭve infaneto revadis: kiel bele estos amikiĝi kun multaj homoj en la mondo per unu komuna lingvo.

Pasis jaroj. En la frua somero de 1930, mi juna dentisto kaj mia edzino, tiam ja ĵus bakitaj novgeedzoj promenis ĝuante freŝan odoron de junfolioj. Tiutempe oni ne sciis publikan ĝenon en nia hejmurbo Toyama, ankaŭ aliloke same. Mi estis tre feliĉaj, sed kredis min, ke ni ne kuraĝis kisi nin surstrate, kiel nuntempaj gejunuloj.

Tiam ni hazarde trovis afiŝon pri E-kurso. Ni tuj eniris en la kursejon, kaj komencis lerni Esperanton. Ne estas bezone aldoni, ke mia infana revo kuŝanta en mia korprofunde multe instigis min al diligenta lernado.

Tamen, tiun kurson mi ĉeestis nur tri-kvar fojon, ĉar mi estis okupita de miaj laboroj, kiel dentisto, teknikisto, flegisto-aŭ-helpisto ktp., ĉio en unu persono. Sed memlernadon mi daŭrigis diligente, akirante tempo-pecojn inter la laboroj, en tagmanĝa paŭzo aŭ en profunda nokto. Baldaŭ fervoruloj el la kurso kunvenadis al mia dentista oficejo kaj fondis (pli precize refondis) Toyama E-Societo, komencis eldonadi organon SRONO. Ni strebis por la nobla idealo, samtempe ĝuante amikecon naskitan dum la kunlaborado.

Dume mia edzino fariĝis patrino de du infanoj kaj ŝi pli frue ĉesis la lernadon de Esperanto.

En la 8a jaro de Ŝowa (1933) kun ĉiuj familianoj mi transloĝiĝis al Tokio. Nur malofte mi vizitis Esperanto-kunvenojn. Mi devis plenforte labori ekskluzive por mia profesia okupo luktante kun la severaj vivkondiĉoj. Multe pluvis, uraganis. Ja preskaŭ ĉiuj personoj renkontas tion en sia vivo, sed multaj venkas tion, ĉiu laŭ sia maniero.

En tia malfacila tempo mi tamen ne ĉesigis la minimuman kontribuadon al E-movado, t.e. pagi la membrokotizon al JEI. Ĉi tio estas mia sola merito kiel japana esperantisto. Kaj mi petas vin nepra ne forgesi pagi vian membrokotizon. Kaj se vi ankoraŭ ne estas membro de JEI, bonvolu aliĝi al JEI senprokraste jam hodiaŭ vespere. Ha, dankon!

\*\*\*

\*\*\*

\*\*\*

Mia edzino Namiko dum multaj jaroj okupitaĵ de hejmaj zorgoj estis iomete liberigita, kiam nia filino gradiĝis de 日本女子大学 kaj nia filo estis studento de 日本医科大学. Tiam ŝi intencis lerni Esperanton, en kiu ŝia edzo tiel fervore sin okupas. Tre povas esti, ke stimulus ŝin virina ĵaluzo aŭ amo scii kion la edzo nun faras ekster ŝia vidkampco.

Ŝi komencis memlernadon. Pri malfacilaj punktoj foje kaj foje ŝi demandis al sia edzo, sed ĉi tiu neniam donis helpon. Lia respondo estis: "Konsultu kun vortaroj aŭ kun gramatikaj libroj. Esperanton oni povas memlerni, kaj tio estas granda diferenco, malsame ol aliaj fremdaj lingvoj."

Tiel, ŝi nun posedas Esperanton, kvankam tre malperfekte, tamen sufiĉe por konversacii kun alilandaj esperantistoj, kaj por ĉeesti kune kun sia edzo E-kunvenojn.

Kaj esti esperantistoj-geedzoj estas afero kun avantaĝo. Ni povas interparoli intimajn aferojn laŭ bezone, promenante surstrate, sidante en trajno aŭ en kafejo ktp. Mi kredas, ke tio ne malmulte kontribuas al pli profunda amo de geedzeco..

Dankon pro via aŭskulto.

(parolado en la 38a Kongreso de Esperantistoj en Hokkajdo, 1974 07 27)

## ハンブルグにおける世界大会参加記

相 沢 治 雄・札幌

世界大会に出席しなければならない！ 私がそう考えたのは、実に  
1930年、札幌工業学校の山本<sup>77</sup>佐三先生が Esperanto による世界旅  
行をして帰郷され、その楽しかつた、又有益であつた旅行談(このこと  
については、いつか Leontodo 誌上に書くことがあると思ひ)を聞いた  
時にはじまる。

その後1939年 Helsinki 大会に参加すべく旅券まで用意したの  
だが、丁度その時私の勤務していた定山溪鉄道は鉄道部門の廃止を決定  
しており、私は豊平駅長をしていながら、海外旅行は好ましくないとい  
う会社の都合で中止せざるを得なかつた。しかしこの時この旅行計画に  
多くの方々、Esperantisto 並びに非 Esperantisto の協力があつ  
たことはことに感謝の意を表しなければならぬ。

前向きが長くなつたが、私が今度の Hamburgo の大会に是非参加し  
ようと思つたのは、そのあと魅力ある都へりに3日間滞在することにな  
つていたのである。

さて私達 J E I Esperanta Tour 一行32名、団長 磯部幸子外オ  
ーストラリヤ旅行記の堀先生、丘英通先生御夫妻、龍神丸の翻訳者大崎  
和夫御夫妻、岩内の桜居甚吉氏、ほとんど毎年世界大会に参加しておら  
れるのは篠田先生御夫妻、住吉勝也先生御夫妻、多田浩子さん、大阪岩  
永商店の社員とのことであるが7才近い方がハンブルグに到着したのは  
7月26日の朝9時近くであつた。

ハンブルグの街は美しい。ハンブルグの夏はずずしい。そして絹のよ  
うな雨が毎日のように降っている。「ハンブルグの男はレンコートを着  
て、女はパラソルを持つて生れて来た。」という諺があると言ひが、こ  
れは、ハンブルグの人が作つたものではない。外の都市の人が作つたも  
のである。われわれの泊つた Hamburg Plaza Hotel は Hamburgo 一  
のホテルであり、そして大会会場のすべてが同一の建物の中にあるのだ。  
これは今大会の恵まれた条件の一つであろう。大会会場まで宿舎からい  
ちいち通うのでは大変なことだ。CCH (Congress Centrum Ham-  
burg) とよばれる大会場は Zamenhof と名付けられた3000人位は

収容できる大会場、Baghy という中劇場程度の会場、外/2の小会議場があり、大会に関するあらゆる会議、催物がすべて同じ屋根の下で行なわれたのである。

ハンブルグの美しさや、街のただずまいについてすこし書きたいのだが割愛する。

受付までには時間があるので桜居さんと町に出て見る。駅の前に大会のビラが出ているので見ていると声をかけるドイツ人がある。悪運が Insigno をつけているので気がついたらしいが S-ro Karl Fisher という Hamburgo の Esperantisto であつた。この人とはついでに二度と出合わなかつた。1,600人の中からこの人をさがすのは無稽かも知れない。

14時受付開始である。それ程大勢ではないのだが時間がかかる。入手が少ないのと不慣れのせいであろう。

27日 Hotelo の食堂で夕食をしようとしたがメニューのドイツ語が読めないで困りがかつた Bonn の老婦人にメニューを説明してもらつた。この人は S-ro J. Kleiloson と言ひ S-ro Fisher とは異なり毎日のように顔を合せた。

20時から大会第一日目の感敬的な Interkona Vespere が始まる、会場には丸テーブルが置かれ、それを取りかこんで座る。飲物は有料である。約50カ国から1,600人が集まつているのだ。思い思いの席について交歓が始まる。日本からは60人位参加している。東京大会では見られなかつたことだが、南アメリカやその他から色の黒い Samido-anoj の参加もあつた。何か Esperanto の Internacieco が強められたといつた心強い思いがしき。国外の国々に初めて参加した私だけの感じであろうか？ 私は Finnlando の人から Esperanto 入りのボールペンをもらつた。又 Argentino の婦人と知り合つたりして、24時この感敬的な会合が終つた。

28日(日) 10~13時 Inauguro de la Kongreso 在大会の行事中最も劇的な場面であろう。今大会もすばらしい会場に恵まれていよいよ大会の幕は切つて落されようとする。

Kongresa Prezidentaro は Prof. Lapenna (出席しないとのうわさがあつたが出席し、最初と最後に挨拶した)、S-ro Carlan、

Prof. B. Popovic、S—ro G. Becker、Prof. H. Ebinger、  
D—ro W. Boumann 達であつた。

Lapenna の Bonveniga Saluto に続いて、ハンブルグ市長代理  
副市長の D—ro Biallas、文化科学大臣 Helmuth Rohde の挨拶は、  
D—ro Rommel が代読、それから各国代表（ノルカ国）の挨拶が次から  
次へと続く。東京大会の時は Interpreti はノルカについてだけだつた  
ように記憶するが、Hamburgo 大会では通訳付が大変多かつた。各国政  
府からの Salutoj が多かつたためと思われる。

本大会の Inaŭguro が終るとノルカ時から Blindula kongreso の  
Inaŭguro、ノルカ時子ノルカ分から Internacia Somera Universitato  
の Inaŭguro と開会式の行事が続く。

大会大学は、この大会中、Lapenna、川村博士等ノルカ人の講師によ  
つて行なわれた。

夜は 20 時から Germana Vespero、ドイツ的な牧歌的な出し物、素  
朴、堅実なものであつた。Germana Gaeista Asocio の次奏楽団外  
Pat kaj Paul の Kant—duo、それに有名な Jean Forge も出演し  
た。

2 日目からは OCH の 20 の会議室、OCH 以外の若干の会場を使用  
して毎日 20 いくつの会議、分科会、又は催しものが同時に開催される  
のである。

さてこの日、日中は Ĝenerala Kunsido de UEA、大会大学は川村  
博士の "Kiu nutras nin homoj sur la tero?" J. C. Wells  
の講義等あり、夜はノルカ～20 時まで Bankedo。引き続き Oficiala  
Balo。Bankedo は想像していた以上のごちそうであつた。ことに最  
後の Brusto de Meleaglo はおいしかつた。今まで七面鳥はたべたこ  
とはあるが、何かもさもさとして美味とは思われなかつたが、この時出  
されたものはこれはこれとは思われる位大きな Brusto であり味も最高  
であつた。同席したのは Brazilo や Nederlando や Bergujo の人  
達であつた。私が折紙でツルを折つて皆にやると、Nederlando の人  
がネコを折つてくれた。折紙は向りの国にもあるのだ。席を替えて Balo  
となる。世界大会ともなれば参加者全員が会場一ぱいに踊りまわるだろ  
うと考えるのは間違いないである。だまつてビールを傾けながら、踊つてい

る人達を見ている人達もいる。この人達は踊ることを好まないか又は踊れない人達である。私も踊れないからだまつてのんでいると、テーブルの向い側にいたポーランドの Fraūline が私のそばに来てなぜ踊らないのかという。私は踊りは下手だし、5、6年も踊つたことがないからダメだというと、それじゃ好きなようにして踊つたらとさそわれたので、辞退するのも大変失礼なことだと思い、踊らせていただくこととなつた。非常に Granda な Fraūline で、彼女は上から見下げている。私は下から見上げているといつたあやしげなかつこうで踊つたが tre granda plezuro でありました。

7月30日は Junulara Tago、主として Junuloj 関係の催物が20いくつか行なわれた。この日、私と桜居さんは Ekskurso A (市内観光) へ行った。美しい Hamburgo の街のことはいろいろ書きかいたが、直接大会に関係ないから省略する。ただ一つだけ。この Ekskurso の中でハンブルグ港を船で同乗中 E. Burg というオランダの人からオランダ観光案内記のような本をもらつた。お礼に日本のハンカチーフを1枚差し上げた。又この日、松葉先生からかのまれたドイツ語の本をさがしたが本屋で見付けることはできなかつた。この本は fonetiko に関するもので、その後もさがし、10軒位の本屋を廻つたが見付からず、丘先生の奥さんに相談したら実に簡単に見つけて下さつた。Hamburgo にくわしい方である。

31日、この日は桜居さんと2人で美しい古都 Lubek 市見物。この市も Hamburgo と同じハンザ都市である。ハンザ同盟等何か昔のことのよう思つていたが、Hamburgo やこの Lubek に来ると、ハンザ同盟はいまだに、いや今こそなまなまと生きているのだと言ふことが感ぜられた。

この夜は20時から実績あるブルガリアエスペラント劇団のよび物、セビリアの理髪師、何かイタリ語風の発音で、わかるということだけでなく大変面白かつた。

8月1日、Ekskurso tago

桜居さんはエルベ川を下る船旅で Gluckstadt に、私は海水浴場 Heilingenhafen に。汽車の予定であつたが都合でバスになる。Heilingenhafen は海水浴のため作られた市のようである。何もな

いバルト海の一角に海水浴だけの近代的な都市がある。Hamurgo とは全く異つた近代的な市がある。由里忠勝先生も参加され親しくお話しすることができた。

夜は映画 Angoroj、昨年亀岡の日本大会で見ているがもう一度見ることとする。7月28日北海道大会でも上映されたと思うが、発音にわからない所がある上に Esperanto の Slangoが含まれていて、その上ストーリーが何か何んだかさっぱり解らず、私はあれは Psikologia filmo だから解りにくいのだと人には言つておいたが、作つた人も解らないのじやないかと思うようなメイ画であつた。

8月2日 今日大会大学に顔を出そうということで Waringhien の La inknabloj (インキュナビラ、何んのことか解らない) de Esperantolingvo に出席した。このような講義は毎日2つも3つも開催されているのである。

夜は20時から Internacia Vespero

最初は日本で、大本の Fraŭlinoj が7、8人舞台に出て、日本民謡に合わせて踊つた。

昔は世界大会に日本から出席する人は何年に1人ということであつた。今は私のようなものまで参加することができ、しかも何人かの Japanaj fraŭlinoj が舞台で踊っている。感無量というべきか。

次に世界各国の有名エスベラント歌手が次から次と lied や Kanzono を披露したが、男性歌手等は日本歌手のようにマイクに口をよせて歌うような事をせず、ぐつとマイクを彼方におしやつて歌い、その声は劇場一杯にひろがるのである。

歌手は Maria Angelova (Bulgario)、 Ramona van Delsen (Nederlando)、 Jordan Karagozov (Bulgario)、 Margaret (Britio)、 Barbara Kohl (Luksenburgo) 中でも Jordan Karagozov のオソレミオやヴォルガの歌声等は実に見事なものであつた。

この夜特筆すべきことがあつた。それは来年度大会が KKK が今日に至るまで結成できなかつた等の事情もあり、未決定であつたのが、この席上コペンハーゲンに決定したとの発表があつたことである。

8月3日 最終日 大会閉会式である。



10時 この日は開会式当日大会場演壇正面にかかげられてあつた大緑星旗はすでに降されたまゝであつた。この緑星旗は1965年東京大会で初めてUK用として作られ、それ以降毎年次の大会開催地に伝達されて来たものである。

各種 Premio 授賞。Fakkunsido の発表。UEAのPrezidanto は Lapenna が辞任し代りに1977年までTEJOのPrezidanto であつたS-ro Tonkin が就任した。そして最後に前述の緑星旗の伝達式が行なわれた。Hamburgo のD-ro W. Bormann から Kopenhago のS-ro B. Kulmann の手に。そして La Tagiĝo の大合唱。これで華やかなハンブルグ大会は終つた。

世界大会に出席することはすばらしいことである。Esperanto 会話に熟達し、Esperantujo の内情にもくわしければ、それは更に喜びも多いことであらう。しかし、エスペラントを始めをばかりの人にとつても喜びは大きい。現にわれわれの旅行団の中にも、Esperanto を始めて2、3年という人が2、3人いたが、この人達も大会の感激に身をひたしていたのである。

大会参加の外人 Esperantisto だつて必ずしも上手とは言えない。カリカリ パーソノイ等と言うから何のことかと思つたら kelkaj personoj のことであつたり、mortigas fajron と言うから estingi でないかと言つたら、その言葉を思い出せなかつたと言つたりだから、語学の不足は恐れることがない。こんなことがあつた。私が色紙に Por la memore de と書いて次に大会の sigelmarko (59a Universara Kongreso de Esperanto Hamburgo 1974 と書いてある) を貼つて皆さんのサインを求めたらベルギーの同志が de と書くのは間違いだ、それは al でなければならぬと言つた。私も半信半疑で後で人に聞いてみたら各前置詞の用い方は、その国その国で相当用い方に違いがあり、自分の国の習慣で用いる人が相当あるとのことであつた。

さて、旅行団は感激多き Hamburgo をあとにして Berlin に向つた。5~7日 Bern、7~8日 Dijon、8~/ /日 Paris、/ /~/3日 London、/3~/5日 Amsterdam、この旅行中書きおとすことのできないことがある。それは風車の国オランダ Amsterdam に行つたとき

である。/ 4日希望者だけで Rotterdam の U E A 本部を訪ねたときのことである。

事務室、資料室、図書室等を見せてもらつて Kanada という室で休憩していた。このカナダという室は、カナダの Samideanoj から室内調度。本棚、額、机、椅子等の寄贈を受けて構成されているのであるが、この時そこにいた S—ro R. Moerbeek という人に、/ 935年前後 Neologismo 排斥についての何等かの文献がないかと尋ねたら、しばらく書類をさがしていたが、やがて/ 枚の紙をリコピーしてくれた。

これは / 933年第2回北海道大会が Neologismo 排斥を決議し、それを日本大会に提出し可決され、更に / 935年27回 Roma の世界大会に提案して採用された結果に基づくものである。

私が Hamburgo の世界大会に出席し、U E A の本部を訪れ、北海道大会での結論を入手できまことは本当によかつたと思つている。深く S—ro Moerbeek に感謝する次第である。

Neologismo 排斥については次号別記事によつて紹介する。

U E A 本部訪問後近くの支那料理店で U E A の人達と会食した。そのうちの / 人が Sadler であり、もう / 人は Milnjevic であると思うが名前がはつきり聞えなかつたので違ひかも知れない。

自己紹介があり、私はこのヨーロッパ旅行において、勿論 U E に参加できたことは最大の喜びであり、次にスイスでユングフラウを天気のよい日に目の前に見ることができたのは好運とも言える忘れられない思い出である。第三に U E A を訪問することができ、長い間さがしもとめていた Neologismo 排斥に関する記録を Kanada Ĉambro の Samideano が簡単に見出して下さつたことは本旅行最大の収穫であり感謝にたえないと述べた。

e r a t u m o ( Leontodo n-ro 53)		
HARIT KUNNA (p9--11)		
Linio	Eraro	Korektu
1. 1a	selena	serena
10. 6a	malbonmarco	malbonmarĉo
20. 5a	lontane	lontanen
6a	jardoj	jardojn
25. 7a	ses	ses'
60. 7a	forĝetaĉis	forĵetaĉis
70. 6a	homo	homon
75. 2a	forperita	forpelita

## ベトナムからの代表団来日延期に！

11月に北九州市で開かれる第67回日本大会にベトナム民主共和国からエスペランティスト代表団を招こうと、全国的に資金カンパ活動や歓迎準備がすすめられてきましたけれども、8月14日、「ベトナムのエスペランティストを歓迎する会」中央事務局（東京）に、ハノイの「ベトナム平和を守るエスペランティストの会」（VPEA）から次の電報が入りました。（全文）

Ni bedaŭregas ne povi sendi delegacion al Kongreso kaj amikece viziti vin pro tiutempaj enlandaj laboroj. Sincerajn multdankejn pro fervora invito kaj esperas ke amikecaj rilatoj inter ambaŭlandaj esperantistoj firme daŭru VPEA

わたしたちも、同代表団をぜひ北海道に招こうと、5月から資金カンパを呼びかけ、約50名もの多数の方々から、あたたかいご協力をいただき、目標額を超える11万7千円の金額を、短期間に集めることができました。

具体的に来道の日時が示され、道内でのスケジュールを決め、宿泊、歓迎会の会場の手配、札幌と苫小牧での歓迎会や交流会の準備に着手しはじめていた時だけに、ベトナムからの代表団来日延期の知らせは、たいへん残念です。

「歓迎する会」中央事務局では、来春または第68回日本大会（1975年8月、金沢）への来日をVPEAの方へ打診しています。カンパを寄せてくださつたみなさまの異議がなければ、集まつた資金は、その時のために、「ベトナムの同志を歓迎するための基金」として残しておきたいと考えています。

「歓迎する会」の「事務局だより」（n-ro5 1974, 8, 30）によると、ベトナム側からの来日延期についての事情説明は、航空便で40日以上かかるため、まだ詳しいことはわからないとのこと。そのうちに発行される「事務局だより n-ro6」でそれがハッキリするでしょう。

（沢谷 雄一）

ベトナムの同志を北海道に招くための資金カンパ  
第2次集計発表(8月31日現在)

10000円	山賀 勇、函館エス会
3000円	ゴトー、ヨシハル、加藤成子、江口正元
2000円	菅原鉄雄、表 外造、北島 隆、黒川恵美子 久保田泰則(美唄)、佐村貞雄、藤村忠明
1000円	徳津博子(厚真)、河口政子、菅田都子 桑原 一(札幌)、小林正明、渡辺タニ、那須崇
小計	50000円
合計	117000円 ありがとうございます。

その1

### ESPERANTO-CENTRO からのお願い

あなたに所蔵している古い esperanta 本を  
ゆずって下さい!

エスペラント・センターでは、エスペラント運動関係の史料の収集整理保存、公開をその役割のひとつにしています。古い内外のエスペラント雑誌、機関紙(戦前・戦後を問わず)、パンフ、書籍などを提供できる方、あるいは、古い Esperantistoj で、協力してもらえる方をさがしています。とくに、わたしたちの機関誌 LEONTODDO について言えば、初期のバックナンバーは完全に欠落しています。(はかんずく～1960年までのもの) 「北海道エスペラント運動小史」も復刻されたことだし、関係資料を、霧散消滅する前に、できるだけ今のうちに集めておく必要があるでしょう。運動の継承性を保つためにも、ご協力ください。

連絡先 065 札幌市北区北21西2-19  
北海道エスペラントセンター  
振替口座(小樽)22427

その2

### ESPERANTO-CENTRO "越冬" のための資金カンパを!

11月1日の寒波を経験してみても、あらためて北海道の冬の厳しさを思い知らされたのですが、どうしても"石油ストーブ"(本格的なやつ)がないと、あの建物では十分な暖房は保てません。いづれにしろストーブを購入しなければ……そのためのカンパを……(中島でもあればよいのですが……) 目標3万円(?)

大友 毅 一・札幌

先にソ連一周の道程を書こう

新潟——ハバロフスク——タシニケント——トビシリ——エレバン——  
ソチ——キエフ——レニングラード——モスコ——ハバロフスク——  
新潟

5月/7日新潟発であるが、出発地が飛田でないで、出発地まで国鉄にする。家を出たのは5月/5日であつた。札幌発20時何分かでわれわれ *geedzoj* は出発した。車中「知られざるソ連」と言う本を読んでいたが、読めば読む程、ソ連行きが不安になつてきて *maltrank—vira* なこと甚しい。

7日新潟国際空港に集つた。大体一行は15~6人と聞いていたもので、どんな人達が来るのかなと思つているうちに、三々五々と集つて来てお互いに二、三人の人達と自己紹介し合つている。私達もその例にもれない。ソ連に行くのは、これで何回目とか、ロシア語が話せるとか、同じ観光にしてもやはり一寸変つている人達が多いようだ。一行16人 *gvidanto* を入れて17人である。

AM/1時20分 *aerhaveno* から *aerfroto 696* は、われわれ一行を乗せて飛び立つた。一路 *Havarofusk* に向う。快晴の空は青く雲の上は何もさえぎるものもなく、ただ青青の一色である。この *aerfroto* は、丁度日航の727のような格好であつて、100人以上は乗れるような大きなものであるが、*gastoj* は、われわれ一行のほかは2、3人である。国際線でこのようにゆつたり乗つたのは全く初めてである。正味要した時間は1時間55分であるが、時差の関係で *Havarofusk* に着いたのは14時/5分である。時計を1時間進めた。

初めて見るロシアの風景に心はずませながら *Havarofusk* の土をふんだ。暖かい、全く札幌と同じだ、草も木も空気まで滑く澄んで札幌と変りがない。*Havarofusk* 一番と言うセントラルナイアホテル、これがわれわれのロシアでの第一日目の宿となつた。5階建の外見は堂々たるものであるが、中は全く荒けずりでお粗末である。バス、トイレは部屋についてはいるが、日本人のこまかい *sprito* から見ると、これ又

荒けずりである。例えば、タイルの張り方を見ても、目地が合うが合うまいが、曲ろろがねじけようがおかまいなしと言う風である。これも国民性であろう。

この日は、明日の出発まで自由行動なので、夕食までの一時 edzino と Havarofusk の街を散歩する。天気は快晴。Hotelo の前はレニン広場である。ピオニールが団体訓練の真最中である。ノ人の gvidanto の号令の元に、このたくさんさんの geknaboj が一糸乱れず規律正しく動いているのを見て、何となくなつかしくなつて来て、ロシアは若い国で素晴らしいと思う。もし日本でこんな事をしたら大変だろうななどと思う。夕食後7時になつても8時になつても全く日がくれない。このレニン広場は、色とりどりに若者男女や家族連が乳母車を押したりして、ひつきりなしに集つて来て、この長い夏の日を楽しんでいるようである。われわれも9時には hotelo に引き揚げて休むこととする。

5月/8日は、午前中 Havarofusk を turismo する。ここで、一寸ロシアのインツーリストについて説明しておく。ロシアには、日本の交通公社のようなものは、国営のインツーリストがただ一つあるだけである。ロシアに入国してから旅行は自分達の自由にはならない。例えば、行先変更とか、ホテルの自由選択とかは勿論である。旅行に関することは全部このインツーリストの命令にしたがわねばならない。日本からは、交通公社の方からノ人の gvidanto がついて行つたが、これはわれわれの個人的な世話をしてくれるのが主で、対外的な事は全部向うからハケンされたロシア人の gvidanto がやるのだから、先のことはわれわれは勿論解らない。何と言うホテルに泊つて何時からどんな事をするか？向うの gvidanto もあまりハッキリしていない。目的地に着いて、ロシアの gvidanto がその土地のインツーリストに行つて初めて、何と言うホテルに泊つて、明日の予定は何々と命令されて解るという状態である。このことは、予定を作るのに大変不便であるが、これが又後になつて私が esperantisto に会ふのに大変役に立つたのである。この制度については、必要に応じて書く事にする。日本とは大分違うという事だけ知つておく必要がある。ついでにもう一つ。空港では絶対 foto は禁物である。望遠鏡で見ることもハット、テーブルオーダーは入国禁止である Havarofusk からは、クジノフさんという日本語科の大学を出た人

がわれわれの gvidanto となつた。この人は、われわれがロシアの地を離れるまで / 5 日間起居を共にした。ロシア人にはめずらしく背の低い、われわれ日本人よりむしろ小さな位の人であつたが、若々しく、呑むとほがらかになつい日本の歌を歌つたり、ステンカラージの歌を歌つたり、愉快な人だつた。

5月 / 8日 / 4時 / 9分、われわれ一行は第二の目的地タシケントに向うべく機上の人となる。この国では aeroplano はバスのように思つて居るらしい。国際線は今まで何度も乗つた旅客機と同じようにきれいであるが、Havarofusk からの国内線は、同じ国内線でも日本とは全く別である。外見は普通の立派な旅客機であるが、中に入ると何となく武骨である。ガツチリしているようで何も飾りが無い。今までヤンワリ真綿にくままつてよりに乗つていたのが、急に外にホーリ出されたやうな気がする。こんな旅客機もあるんだなと思う。何か軍用機にでも乗つたやうだ。 / 00 人位の人で機内はホガ一杯である。

Tasikento までの所要時間は / 0 時間 44 分であるが、時差があるので Tasikento に着くのは / 時 30 分である。ロシアは実に vastalando である。途中イルクーツクにも / カ所迄翼を休めるはずである。

Havarofusk を出る時は大変 varma でわれわれは半袖シャツ一枚女性も半袖ワンピースの薄物という姿で機内の人となつた。とどろが、イルクーツクが近づくにつれてだんだん寒くなつて来る。機内には暖房設備はしてはいない。しかも、機内放送によるとイルクーツクは氷点下 6 度というところである。一寸想像がつかない。さあ皆あわてて何かを着ようと思つた vesto は手荷物として預けてあるのでとりにもならない。小さなバックに入れておいたスカーフを出して巻いて見たり大変である。私は幸い上着を持つて居るので助かつたが、edzino が大変である。今になつて gvidanto をうらんで見ても始まらない。日本からの gvidanto はロシアの旅は初めての人であり、クジノフ氏は何も言わなかつた。彼等にすれば、こんな旅をする時は厚物を用意する事は常識なのである。さて仕方がないので、棚の上にあつたカーテンのよな布を引張り出して体に巻きつけるという全く異様な風体である。そうとうするうちに機はイルクーツクに着く。本当に外は寒いようだ。空港に居る人達は皆厚い外套を着て居る。はく息は白い。雨が降つたらしく所々

に水溜りがあるが、これに氷が張っている。この寒さの中をつつ走つて待合室にたどり着いた。幸いターミナルは暖房がきいていて暖かだつたヤレヤレと思う。又今度機内で寒くては困るのでせめて腹の中から暖めようと考え、酒でも買つてと思つてペリオスカ（これは外国の金のみが通用するロシア特有の店）に行つたが、今日は何曜日とがで休日に當つていて人も居るし、品物もあるか買ひ事ができない。ノ時間なまをなくまに過ぎて、又寒い風にさらされながら機内に飛込み震えていた。しかし、ここを飛び立つてからだんだん暖かくなつて、いつのまにか又元の暖かさを覚えていた。さてここで、nia cambro の中で一寸変り種のみが居るのを覚えておこり。

ノ人の asterlandiano がいた。顔も青く髪も赤い。鼻はどんがつてゐる。しかし日本語は上手だ。後で解つたが、この人はロシア人で国籍結婚をし、今日の年振りで里帰りするところだそりである。実にホウチカを mirano で、われわれ grupo の人気の中心であつた。この人がこゝにゐれば、宴会があれば文めて書く筈にする。

さて、私の結油地に着いた時は、もう寒くはなかつた。又々改めてロシアの vassaga をのをつくづく認識した。いよいよ Tasakento に着くこととなる。どこの空港もロシアは同じであるが、大きく、かつ広いそして同じような aeroplano が少なくとも、3の機はずらりと翼を休めている。全く遠距離用バスである。乗る人もそんを心算らしい。

Tasakento は暖い。もう夜の7時過ぎである。ここでもこの町の一流 hotelo ロシアホテルに泊ることとなつた。ここには、かねて星田さんに紹介された Petero Poriscuk さんという samideano がいる。しかし夜おそく、しかも nia cambro が決つたのがノノ時過ぎであつた。明日朝電話をする事に決めて、その夜はノ2時過ぎに床に就く。

さてその前に一寸書く。日本も同じであるが、ホテルから市内に電話をする時は先ず何番かを廻してそれから相手の numero を廻すのである。その何番を先に廻すかという事を前夜のうちに聞いておこりと思つた。ここでもう一つ、今までの日本や他国のホテルと一寸異つた所を書かねばならない。ロシアのホテルでは一番下のカウンターでは余り用はたさない。各 etago の鍵番の小母さんが必ず頑張つてゐる。この人に何でも聞いたたりたのんだりする。ここで私もこの小母さんに市内に電話する



時の番号を聞いた訳だ。少し位いの angla なら解るだろうと思つていた。ところがところが全々ロシア語以外は何を言つても niet (ne) と言つて腕を広げるだけ。いかに手まね足まねをしてもだめである。困つてしまつた。丁度その時、向いの部屋に居た grupano がロシア語の出来る人だつたので、この人を起して来てやつと聞いてもらつた。日本人は angla はどこでも通じると思つて居るが大違いだ。どこかの国のように anglo の属国みたいにネコも杓子も英語を習う国の人、このロシアの人のように、お前達、用を達したかつたらロシア語で来い と言ふようなプライドが欲しいものだと思つた。ここでつくづく esperanto の必要性を思う。さて余談は抜きにして

morgaŭ matene je la sesa horo オレの esperanto がこの異国の地で通じるだろうかとか全く少年のように胸をハズませて恐る恐る、これは昨夜苦勞して聞いた numero、次に 33-96 26 を廻した。電話の信号音が日本の話中のような信号である。2、3回切つたり廻したりして居るうちに遂に通じた。女性の声である。

"Haloo haloo mi estas japana esperantisto. Ĉu vi estas Petero Poriscuk?"

と第一声の esperanto を出した訳だ。ところがところが、相手は全くチンプンカンプン、ロシア語でベラベラである。ああ困つた。しかし私はなおも続けて esperanto esperanto と何回も言つた。そしてたしかに「ダー ダー」と言つたように思つた。(これは後で解つたがロシア語の jes である。) 何か人を呼ぶような気配を電話の向うに感じた。そして又再び電話が取られて、今度はまぎれもなく esperanto が聞えてくる。アラなつかしやな! "Mi estas japana esperantisto Ootomo" と言ふ又第一声であつたと思ふ。それからは何を言つたか余り記憶していない。相手の言ひ事を聞き取ろうとするが、低くてなかなか聞きにくい。電話機が悪いのだろうか? もつと laute に言つてくれるように注文した覚えはある。大変 afabra な声である。ホテルの名前は何かと言つている。ロシアと半分まで言つたら解つた解つたという。Ĉambronumero はと又たたみかけてくる。一つ一つ数字を発音する。向うも又一つ一つ発音して確かめる。これからの予定は? と言ふので、9時朝食、10時 turismo 出発と言ふ。では10時に

hotelo に行くから待つて居るよりに言いが、ノの時では、すでに出発の時間でいそがしい、彼と話をしているひまがない。私はトツサにヨシ朝食を抜こうと思つた。そしてノの時では困るから9時に来てくれるよりに言つた。“Bone, bone kombrenas”と言つたよりに思う。そして何度も何度も時間を確かめ合つて電話は切られた。オレの esperanto がこんなにハッキリ用がたせたとすると、受話機を置いた後もホットしたよりの嬉しさが胸一杯にこみ上げてくる。edzino は何か不安そうに果してわが edzo の信用ならたの esperanto が適じなのであるよるかと言うよりに半信半疑のよりにある。eksterlando で生れて初めて会う esperantisto である。早速ネクタイをつけ上着を着て8時5の分にロビーに出る。家内は食堂へ。

沢山の人達の中で、向うの方から私を見付けたよりのだ。背の小さき日本人で、しかも verda etelo のバツチをつけているのですぐ解つきのだるよるか？ 先ず最初の握手が交さぬか。私よりるツツ上か？（後で解つかがるツ年上だつた）堂々たる体格である（ロシア人としては普通）。先ず自己紹介。ロビーの空いたイスを見つて腰を下す。何を interparoladi したかあまりハッキリ覚えていないが、実にスムーズに会話は進められた。丁度食事を終つて edzino が私達を探してやつて来たので紹介した。彼は半袖の開襟であつた。vi と会つてをめぐむのを我慢して意欲をして来たと言つたら彼は恐縮していき。Ĉu vi naturnamandis? と聞くので、今日は時間がたいたので抜いたことをつげた。われわれ grupo の今日の予定は私達よりこの Porisuek 氏の方が良く知つていた。例のインツールリストで、私と会つて前の時間に調べをらしし。何時に観光に出発して何時にホテルに昼食に帰ると言つて具合になつていて、今はこれで一応 hejmo に帰る。そして午後からの turismo に君達と一緒に buso に乗り度いと言つた。こんな必要な事も、とにかく彼の言ひ事解るのだから実に嬉しい。バスが待つているので ni gredoj kaj li の3人でニコニコ interparolante ホテルの玄関に出て行つた。grupanoj はロシア語の知らない筈の私が彼と自由（彼等から見るとそう見えるらしい）に話しながら来たのだから、大変びつくりしたらしい。私は grupanoj のノ人ノ人に彼を紹介した。li はニコニコしながら手を握つたり頭を下げたりして<sub>17</sub>いた。ここで先ず fotis。彼も又自

分の masino で fotis.

li はロシアの gvidanto の クジノフ氏と何やら話している。これは屋からのバスに一緒に乗ることを交渉しているようである。ロシアでは grupano 以外の人をノ人乗せるのにも malfacila なのだ。

かくて朝はこんな親善風景を残して 11 とは分れて Tasakento の観光ということになる。

人一倍腹のすく私は matenmanĝo を抜いて困つたナアと思つていたら edzino が黒パンと紅茶を魔法ビンに入れて車中に持つて来てくれたので大助かりだつた。

さて Tasakento の風景は私のこのつたない筆で説明するよりもブルガイドのソ連の本を読んでもらうことの方が良いようである。モツバラ esperanto で親善大いにこれつとめをことの方だけ尋くこととする。しかし、ロシアの街は木が多い。どこに行つても緑、緑だ。これは知らせておきたい。札幌がいかにも緑の多い街だと言つても、ロシアのどの街の緑にもかなわないように思う。ノ本切つたらノ本植えよと言うのだ。そうである。Tasakento も例にれず緑の都である。

午前の観光は終つた。時間通り彼はやつて来た。そしてわれわれ一行のバスに乗つた。grupo と言つても全部でノ人であるから、もうこの頃からは初対面当時の堅さは取れて一家族のような親密さである。その仲間に彼が交つて全く和気あいあいと言つた風景である。ロシア語の解る人達と種々と話をしたり、女性には英語で説明してくれたり、又私には esperanto で。grupanoj は大変に喜んでゐた。午後の観光も終つて、彼からは Tasakento における esperantisto の状況を書いた機関誌 3 冊と絵葉書等をお土産にもらう。私は地図入りのハンカチとボールペンを進呈した。しかしこのボールペンも今まで何處かの海外旅行で一度もうまく esperantisto に出会なかつたのでいつでも土産は無駄になつたので、今度もそんなことが懸念され余り上等なものは用意しなかつた。今度こそ上等なものを用意すればよかつたと思う。この前は上等なものをホテルのボーイや飛行機で隣り合せたりしを人にやつた。今度がかくやまれておられない。

彼 P. Porisk 氏はアマチュア無線局の持主でもあつた。子供は男の子が 2 人で、2 人共父と同じように無線エンヂニアであるとのこと。

彼は現在には國家から年金を受取つてゐるということであつた。68才にしては全く若々しく見える。タジキスタンは非常に agrabilia を親善風景を残して、この滞在は終つた。

5月19日24時55分真夜中(正確には5月20日午前0時55分)に aeroplano はトビシリに向けて出発、ここには esperantisto は居ない。ロシアは廣大な國だ。大変きれいなよい街である例にもれず、全く街全体が緑であるトビシリについては例によつてガイドブックを読んでもらうことにして、次のエレバンについて書くことにする。

5月20日朝9時、トビシリ発 今日にはバスで2つの峠を越える。地図で見るとほんの一寸の距離だが、どうしてどうして、9時間バスに乗ることになつてゐる。バスは一路エレバンに向う。道路は実に良い。大陸の大平原を60人乗りのバスに18人(タジノフ氏が1人増えた)の乗客を乗せて全く快適につつばしる。猛スピードである。どこも同じスピードは100キロ位出ているのではなからうか。行けども行けども草原と大畑地、所々には果樹園がある。どこに人が居るのかと思う。実に vastaだ。車中は打ちくつろいで日ソ親善やら日日親善やらで楽しい。エレバン湖が見えて来た。海拔何百メートルかの高原にある湖である。地図には出ていない程の小さなものだが、どうしてどうして、海の如くに広い。突然高い山中に大きな海があらわれて来たようだ。そろそろ腹の方が昼を報げ始めた。このエレバン湖の見はらしの良いレストランで昼食と言うことになる。風は寒い、天気は快晴。さてこのレストランでの国際親善風景を一つ紹介しよう。

われわれの隣のグループはチエコスロバキアの一団であつた。これも約20人位居るようである。大部分が家族連れのようにだ。われわれの方が少し早く食事が終つた。昼休みはまだ大分時間がある。一つ日本の歌でも歌おうと言うことになり、先ず私が知床慕情をバン声を張り上げてやつた。皆がこれに合唱する実に愉快だ。これが終つてまず一段落をしたら急にチエコ側でも合唱が始まつた。彼等は男も女も実に声が調和が取れて心地良く耳に響く。上手だ。歌の文句は解らないが何かピンとくる音楽だ。終つた。われわれは一齐に拍手を送つた。今度はわれわれの番だ。終ると今度は彼等がニコニコと拍手を送る。こんなことがバスの発車まで約1時間近く続く。時間はいつの間にか過ぎた。さて出発

という事になると、初めは全々知らん顔をして、どこの他人どころか、どこの外国野郎かと言うより日本人とチエコ人であつたが、今は手を握り、帽子を振つてサヨナラ、サヨナラと言いながら別れ難い名残り残して日本チエコの国際親善なのだ。話し合えば人間は皆同じだ。言葉の知らない歌でさえこんなものだから、もし世界中が esperanto を話したら恐らく争いは今の半分にはなるだろうなどと思ひながら彼等と別れたかくしてバスは一路エレバンに向う。エレバン着ノ時。ホテルはアニメーホテルである。これまたエレバンの上級ホテルである。ロビーで各々の cambro の鍵をもちつていた時、ノ人の眼の青い青年が私の側によつて来て盛んに何か話しかけて来る。私は esperantisto かと思つて ĉu vi estas esperantisto ? と言ひながら私の胸のインスイグノを示すと、彼は解つてゐるというより察振りをする。そして又何かを言うがさつぱり解らない。そのうちに彼はイタリア語を話してゐるらしいことが解つて来る。イタリアーノ? と言ひとコソクリをした。日本からのグビダンは外大のイタリア語科を出てゐることを聞いていた。早速彼を探して来る。彼も今は部屋割りを各自に知らせるので *crpata* であるが私のところに来てくれて、青年の言うことを認めてくれた。察つたことは、彼はイタリアの留学生で esperanto を勉強し出した。日本の青年と交通をしをいから紹介してくれと言ひよりなことを言つていたのが解つた。彼はにも早く私の胸の *verda alboro* を見つけをらしい。私は *no* を出して彼の住所を書かせ、又私も自分の住所を書いて渡した。もう少し彼とゆつくり手まね足まねでも話したかつたが、皆行つてしまひし、私達も部屋に案内してもらおねばならぬのでこのぐらゐにして彼と別れた。彼の住所は下話のとおりである。若き同志よ 彼と交通をしてもらいたい。

Valentino Ditin

Poste Restante Moscow K-600 USSR

ここエレバンには esperantisto が2人居る筈である。先ず例によつて皆がまだ部屋に入る前にかのロシア婦人タマラさんを頼んで *etago* の小母さんにホテル外電話の番号を聞いてもらひ。かくて7時半には部屋に落ち着いた。時間が早いので早速 *isto* に電話をすることにする。うまく出る。男の声である。Ĉu vi estas Simon Mkurean? と

先ず第一声。と余り期待しないで言つたところ Joe と有り。これはしめしめと "Mi estas Japana esperantisto" とやつたが余り反応がない。そしてよくよく聞いてみるとそれは mi の patro だと言ひ。そして自分はあまり ES 語が解らないというのだ。しかしオレよりは解るようだな等等チラツト思ひ。そして今 patro は居ないと言ひるので、それでは又明日朝電話するから patr が帰つたら日本の E—isto から電話のきたことを伝えてくれるように頼んで電話を切つた。次にもう / 人の Garagen Sevak 氏に電話をする。話中である。これが何度呼んでも話中なのだ。そしてついに出発の時まで話中で連絡は取れなかつた。

翌朝 9 時朝食である。7 時は彼等出勤時間だろうと考えて 7 時に 8—5—6—5—5—7—7 全くスムーズに電話が連つた。これはうまく行くぞと思ひながら先方の出るのを待つ。女性の声である。edzino らしい。例によつて "Haloo Ĉu vi estas....." とやつたが、先方はロシア語でペラペラ、いや、どなつてゐるようである。いかに esperanto を繰り返しても駄目である。そしてついにガチャリと電話は切られてしまつた。何だ昨日あれ程頼んでおいたのに何というすげない e—isto だと一寸フンガイする。子供から esperanto の電話があつたと聞いたら、こちらの ĉambre—numero を告げてあるのだから待つていてくれても良いのではないか等と思ひながに何か割り切れないものを感じる。こんなところで知られざるソ連を読んだ不安が何かフツト通り過ぎる。しかも一方の方は何度呼んでも話中なのだ。maltrankvila なことはなはだしい。昨夜のあの filo は親父に話さなかつたのかな？ 共産圏もやはり親子の断絶か等とフツト思つたりする。ここ Brevan では vidi はあきらめることに決心する。後で解つたのだが、それは Kiev で e—isto に会つた時、Mkrean は死んだと言ひことであつた。やはり息子は esperanto がまだハツキリ解らなかつたのだ。一言 mortis と言つてくれたらよかつたものを。

さてここで又ロシアのホテル気質というか、風景と言ひか一つ書いておこう。

先の部屋を割当てられて入つた。そしてバスの湯を出すために浴そうの栓をしようとした所これがない。これがなくては水がみな流れてしまひ。そこら中探したが見当らない。そこで例によつて etaĝo の小母





最新刊書紹介

"POR FORVISI LA MEMORON PRI ŜI"

Poemaro de Ueyama masao

L'omnibuso 発行 1974年, 88p, 15.5x15.5cm

定価 600円, 〒110円

有名な三人のMasaoの一人である上山政夫さんの原作詩集です。京都で発行されている全文エス文のユニークな隔月刊エスぺラント文化誌"l'omnibuso"に発表された作品を中心にまとめたものです。著者は、散文の分野ではすでに短編集"Negrimaca!"(1967年刊)、その姉妹編の"Pardonon!"(1970年刊)を出し、その軽妙なユーモアと、庶民生活の笑いとペーソスは、よく知られています。それと同時に韻文の方では、Hajkista Grupoのメンバーでもあり、世界大会文芸コンクールでは原作詩部門で入賞を経験しています。したがって、この詩集は韻文部門での創作活動のひとつの集大成というところでしょうか。

序にかえり、Al amikoと題して、

Amiko, kial vi ne emas prozi, versi,  
pri ĝojo, veo per la plum' konversi?

Ni estas simplaj, fremdaj al klereco,  
kun ŝvit' vermantaj sole por panpeco

sed, sciu, ke prikanti ni ja rajtas,  
ĉar ankaŭ ni vivkaruselon rajdas.

Elvenu do el la silento, kara,  
eĉ se en vivo kiel aja amara!

.....

と歌っていますか。これは作者の詩作の立場を特徴づけてもいます。いくつかの章に分かれています。KVAR SEZONOJとは冬境にある人生の歌いと陰うつ、空虚さ、そして自然を詠々と、PETOLE, DROLE...とは"Negrimaca"や"Pardonon"の世界を、NENIAM PLU, PACON EN VIETNAMIOとは反戦平和を、そしてこの詩集のタイトルと題している終章、POR FORVISI LA MEMORON PRI ŜIとは、長い人生苦楽を共にした愛する妻を失った悲しみを歌っていて、読者の心をとらえます。発行所はl'omnibusoは"Analiza Historio de Esp-Movado"(1972年)"LA Danĝera Lingvo"(1973年)、"UTARO DE TAKUBOKU"(1974年)と一連の重要な著作を発行し、東のSTAFETO的地位を確保、気骨のあるところを示しています。わたしたちが、これに答えるには.....? (沢谷雄一)

\*上記の本の注文は郵便振替でL'OMNIBUSO 振替口座(京都)40705へ(緑星堂の取次きです)



読 書 案 内

M A S I N M O N D O

Sándor Szathmari 著

STAFETO 社 1964 年刊

¥600, 7110 (JEL. TEKO 扱)

チャップリンの数多い傑作の一つ、「モダンタイムス」をみた人は多いだろうと思う。それは痛烈な文明批判の映画だつた。機械文明、能率最優先の世の中で、どれほど我々の人間性が無視されているか、それは端的に物語つていた。

モダンタイムスは、今でもその新鮮さを失つてはいないし、事態は、この映画がつけられた頃よりも、より深刻であろう。

便利さは一種の麻薬である。

例えば、自動車をのりつけを著にとつて、自動車のない生活は苦痛になるし、カッオミニなるものを使いはじめると、もうソロバンなど、とても使つていられなくなる。

自らの生活をより豊かにしようとして、人間は機械を作り、それを利用してきた。それを使うことによつて、少々の弊害が生じてても、便利さのためには目をつぶつてしまう。もう後もどり不可能の機械文明がますます進んでゆくとどうなるか。

シヤンドール・サトマリが、そんな未来の世界を、少々単純、かつ誇張的ではあるが、「マンモンド」の中で物語つている。

はじめ、人間の生活にとつて有用であり、人間に支配されていたはずの機械が、いつのまにか、人間の手を離れ、自ら考えるようになり、行動し、逆に人間を支配してしまふ。最後に人類は、おのが欲望に復しゆりされるがごとくに滅亡し、あとには機械だけが残つた荒涼たる世界。

このSFの読者は、つまりは、夢物語であり、そんな事はあり得ないがごとく知れない。だが、作者は、やはり一つの問題をこのマンモンドの中で提起しているように思える。

作者、シヤンドール・サトマリは、ハンガリーの作者であり、エスプラチスト、enknnduko の中で、ウィリアム・オウルドが、サトマリが風刺作家であることをうまく紹介している。 (那須博文)

## Protokolo de la 38a Hokkajda Kongreso

第38回北海道エスペラント大会は、7月27日(土)、28日(日)の両日、札幌市真駒内の青少年会館で行なわれた。参加者は42名、不在参加者2/名。また本大会には、東京から石黒彰彦、なみ子御夫妻が参加された。

第1日目、午後3時から受付が始まる。同時に緑星堂も店開き。

夜は、ビールで乾杯、Bankedoが始まる。テーブルのあちこちでは話しがはずんでいる。初めて見る顔、なつかしい顔。みんな一緒に gaja gaja!

続いて、講演と映画の夕べ。石黒氏は、流ちょうなエスペラントで、エスペラントとの出会いを一席。児玉氏が通訳。このあと ANGOROJ が上映された。

後は自由時間。平行してH E L委員会が行なわれた。

第2日目、9時から開会式および大会協議会が行なわれた。まず、地元中学生の 島君が力強く開会宣言をした。そして La Espero を参加者全員で斉唱。大会協議に先立ち、札幌の児玉、藤村の両氏が大会議長団に選出された。

大会準備委員長の沢谷氏が歓迎のあいさつ。続いて、小樽の山賀氏が病氣療養中の高橋 H E L委員長に代つてあいさつされた。石黒彰彦氏は J E I を代表して(全文は別に掲載)、また、同行されたなみ子夫人からもあいさつがあつた。

地方会活動報告は、札幌の沢谷氏に始まり、小樽の江口(音)、千歳の中里氏、苫小牧の星田氏、函館からは市川氏が、そして教育大学の椿氏からは、同大学の Esp. grupo 及び同大学の付属中学校の grupo の報告があつた。同氏の教育実習がきっかけで、学習が始まつたとのことである。現在1/名。代表して葛西君が活動を報告した。次いで、個人会員からは、村木氏(室蘭)、向井氏(三石)、新田氏(由仁)から報告があつた。

H E L事務局長の清水氏が活動報告および昨年同様にきびしいH E Lの財政状況等を報告した。

ベトナムのエスペランチスト招待に関し、沢谷氏から、資金集めは順

調であり、すでに目標額の90%を越していると、星田氏から日産(案)の説明があつた。

北海道エスベラントセンターが、2月23日のセンター維持員総会で正式にスタートしたと及び学習に使用されていることを藤村氏が報告して、本大会協議中最も深刻かつ重要な問題であるH R I I会費値上げの件が事務局長清水氏より提案され、説明があつた。最近の用紙代(2~3倍)、印刷代の値上げおよび郵便料金も近く値上げされそうであり会費値上げもやむを得ないものではなかるうか。引続き討論、函館の市川氏から意見が出された後、決定された。値上げは次のとおりである。個人会員が年間1,200円、団体会員が1,000円、学生会員は600円となつた。

H R I I役員も改選された。会長 木村喜壬裕(札幌)、副会長 国兼信一(函館)、委員 児玉広夫、沢谷雄一、藤村忠明(以上札幌)、石黒実(小樽)、藤井千枝子(千歳)、星田淳(苫小牧)、市川忠(函館)個人会員から北畠隆(苫小牧)、新田為男(由仁)、向井豊昭(三石)。

協議事項の最後は、来年の北海道大会開催地の決定である。函館市とする事務局案が提出され、万場一致で承認された。

大会協議会は以上で終わり、参加者の自己紹介へと移るのであるが、時間の都合で全員できなかつたのは残念であつた。滝川高校の迫分氏から必修のエスベラントクラブについて、大友氏からソビエト旅行談義を沢谷氏からは、講習生(札幌で行なわれている)の紹介があつた。

祝電は、九州連盟、熊本ニス会、東北連盟および太田氏(福島)、早川氏(小樽)、ハンブルグの世界大会参加中の相沢氏(札幌)からいたされた。

以上の午前の部が終わり、全員青少年会館前で記念さつ影。昼食と休憩に入つた。

午後は Amikeca Kunstido 。さつそく、星田氏の指導、椿氏のギター伴奏で Kantado 。また、椿氏ひさいる少年少女合唱隊も登場。続いて Dramaco 。これは、緑星堂提供である。参加者の中に入り込み、さかんに本の売り込み。途中、飛び入りが出て、これには名優 Kapabla librovendisito もびつくり。おかげで売り上げは良好。再び kantado と続くうちにいよいよ閉会の時が近づいて来た。

議長のあいさつに続き、次期開催地函館を代表して市川氏の招待あいさつ。全員で Tagiĝo を斉唱。最後に札幌の F-ino 菅田による閉会宣言で第38回北海道大会の幕は閉じられた。(薬村 記)

Karaj kongresanoj,

Mi havas plezuron saluti vin en la nomo de Japana Esperanto-Instituto. Kaj mi dankas la organizan komitaton, kiu donis al mi ĉi tiun okazon. Dankon al la prezidanto kaj la membroj kiuj laboras por sukcesigi la kongreson.

Nu, nia movado malgraŭ sia multjara historio ankoraŭ ne estas sufiĉe forte por influi gazetaron, radiofonion, televizion, nome al la ekstera mondo. Konsciaj esperantistoj jam delonge klopodadis por kolekti niajn fortojn. Ni esperis, ke estiĝos potenca organizaĵo tutlanda, al kiu apartenos ĉiuj esperantistoj kaj kiu per ties kolektiva forto povos pli efike agadi, antaŭenŝovi nian movadon. Kaj por la realigo de la espero necesas antaŭ ĉio amika kunlaboro kaj firma solidareco inter organizaĵoj, grupoj kaj individuoj.

Nu, estas ĝojinde konstati, ke lastatempe aperas signoj de tia tendenco, ekzemple, en la komenco de junio al la 22a kongreso de Kansajaj Esperantistoj la organiza komitato oficiale invitis reprezentanton de JEI, kio ja okazis por la unua fojo en la historio de KLEG (Kansaja Ligo de E-Grupoj). Mi havis honoron saluti la kongreson, reprezentante JEI, kaj plie dum la tagmeza paŭzo mi kunsidis kun du ĉefaj funkciuloj de KLEG s-roj Konisi kaj Takeuti kaj reprezentantoj de Kyusyu E-ligo kaj Tokai E-ligo, kaj konsiliĝis pri konkretaj paŝoj al pli bona kunlaboro kaj pli firma interligiĝo de E-Ligoj en nia lando. Mi kredas, ke tiel malfermiĝos bona vojo al la prospero.

Nu tamen ni bone memoru, ke plej gravan rolon ludas la lokaj grupoj kaj individuaj membroj, ĉiam varbante novajn membrojn, organizante kursojn kaj kunvenojn. Ili ja estas la kerno de nia E-movado.

Esperante ke la 38a Kongreso en Hokkaido akiros riĉan rikolton, mi finas mian saluton.

Terhiko Isiguro  
Estrarano pri Organiza Fako de  
Japana Esperanto-Instituto

KASRAPORTO (1973.7.1 ~ 1974.6.30)

ENSPEZ

前期よりの繰越金 89,770円  
 会費 (別項参照) 47,655円  
 書籍売り上げ (歌集その他) 26,950円  
 雑収 5,000円  
 第37回大会残金 20,375円  
 寄付 23,960円  
 内訳 10,000円 額正子  
 2,000円 ウィン・永剛 (東京)  
 栗原 博 (大阪)  
 2,410円 RN-SES 有志  
 2,000円 太田義勝 (福島)  
 1,400円 中里和夫  
 1,200円 高橋運台 (清秋)  
 600円 川端順造  
 200円 向井豊昭  
 150円 青木了子

合計 163,710円

(特別会計—合宿費込)

第3回全道合宿残金 11,405円  
 寄付 14,710円  
 (内訳 10,000円 おおむら (東京)  
 4,000円 三石 清 (名古屋)  
 710円 新年会残金)

合計 26,115円

ELSPEZO

機関誌発行費 (n-raj 50, 51, 52) 93,366円  
 (西洋紙 12,600円  
 印刷製本 62,800円  
 フォックス使用料 4,000円  
 送料 12,966円)  
 歌集 Munimo 製作費 62,000円  
 通信、電話費 18,084円  
 (列示、封筒、封筒 12,870円  
 事務用品 1,250円  
 印刷費 300円  
 電話 4,594円  
 電報 14,200円)  
 教材費 (1973.7.1以後) 2,000円  
 第38回北海道大会事務費 10,000円  
 板管口応急材料 255円

合計 129,705円

(収入)-(支出)=(一般会計残高)  
 163,710 - 129,705 = 34,005円

この Leontodo n-ro 52.54 号の印刷費は、この会計報告に含まれていません。財政状態はよくありません。

esperanto-**新刊**-esperanto-**Alten alten malproksimen**-esperanto-**高くたかく遠くの方へ**-esperanto-**遺稿と追憶**-esperanto-**「朝日ジャーナル」** 11月1日号に、徹底的に再確認すべきエスペ란ティストの理論的遺産と衆議院 2人の書評が出ています。札幌・紀伊園地下街店に在庫あり

法政大学 行定輔 編 土筆社刊  
 高橋 隆 四六四 600円-J  
 定価 3800円

北海道エスパーント連盟会費納入状況(1973.7.1~1974.6.20)

1972年分(今期取扱い)

SES 3名 1,800円

TES 1名 600円

1973年分(団体会員600円、個人会員800円)

HES 6名(前年度完納) 0 | 個人会員28名 8,000円  
(うち18名前年度納)

OEA — —

TES 7名(うち5名前年度納) 1,200円 | 岡本、北島、斎藤  
板倉、佐藤、菅原、清水(保)

SES 24名(うち18名前年度納) 9,600円 | 竹吉、田村、中西  
仁熊、西館、浜田

RN 6名(前年度完納) 0 | 平田、村木、水上  
渡辺、大島、向井

TERO 6名 3,600円 | 大友、堀江、新田  
荒家、北城、小林、米山、藤田

1974年分(団体会員<sup>新会費</sup>1,000円、個人1,200円)

個人会員12名(うち2名前年度納入) 8,800円

TES 4名(旧) 2,400円 | 菅原、板倉、大友  
藤田、西館、新田

SES 7名(旧) 4,200円 | 中西、向井、荒家  
北島、平田(1,200円)、浜田(1,200円)

1975年分(今期取扱い) 2,000円

個人会員 浜田(1,200円)、平田(800円)

準会員(道外) 5,455円

1,655円 紫山 純一、1,000円 松岡 耕二、樽谷 喜三郎、カモ  
セツ子、800円 高橋 徳治

合計 47,655円

HEL会費値上げ決定! Attention!

大会を協議された結果、連盟の会費は、個人会員年額1,200円、団体会員(各  
ロントに所属している会員)は、確成員1名につき1,000円と決定されました。(1974年分  
会費より適用されず。今年度会費未納の方は、同封の振替用紙をご利用のうえ、  
至急納入して下さい。(団体会員はそのロントの会費を会計係に!)

☆ 素晴らしい大会に出席できないのを残念に思います。

渡辺クニ・小樽

☆ Mi tre ĝojas ke la movado en via regiono obstine  
marŝas antaŭen. K. Kurita, Numazu

☆ 脳の手術を東京でして、先日帰つたところです。目下静養中のため  
出席できません。堀江精一・速軽

☆ 北海道大会に参加する事ができなくて非常に残念に思っております  
大会が成功することを心からお祈り申し上げます。

栗原博・大阪

☆ 出席したいのはヤマヤマなれど、悲しきは宮仕えの身なれば・・・  
盛会を祈っております。

☆ Mi kore esperas prosperan kongreson al vi.

Kageura H., Tokio

☆ 大会当日内地から来客の予定のため残念ですが出席できません。  
ご盛会を祈っております。吉田栄・函館

☆ 3月30日より急病にて入院中で、経過良好ですが、未だ退院でき  
ないので、大会に出席不可能です。高橋要一・札幌

☆ 残念ながら所要のため参加できません。大会の成功を祈ります。

国兼信一・函館

☆ 残念ですが当日法事のため出席できません。大会の成功をお祈りい  
たします。大橋敬子・小樽

☆ 子供がまだ小さいので欠席いたします。次回には出席したいと思つ  
ています。西館京子・札幌

☆ 今夏北海道へ転住の予定でしたが、都合により明年に延期いたしま  
した。盛会を念じます。渡部隆志・福井

☆ 出席する予定でございましたが、千葉の友人が来遊しますので、出か  
けられなくなりました。奥田スミ・札幌

☆ 大会の成功を祈っております。三浦俣夫・名古屋

☆ さわやかな気持で大会にのぞんで、ぜひ成功させてください。

Fredan senton ! 藤尾大治・東京

☆ 残念なことと、ばあさんが神経痛で医者通いをしているので、仕事

の関係で出席できないのです。エス語の方も大分上達しましたといつても「小坂エスペラント講座」をとにかく一応読了しました。でも跡を振り返ると初箱のあとのように、もう元にかえつていようです。また読み返していますが、スピードは加速度的です。

米 山 寅 吉 ホロカヤントー

☆ 大会のご盛会を祝します。

橋 場 功・札幌

☆ 発展を祈る。 Vivu plene esperantistoj en Sapporo.

山 崎 久 蔵・舞鶴

\$

1974 07 22  
Onder de Beumkes 29  
NL-6200 Velp (Gld.)  
Nederlando

Al la 38a Kongreso de Esperantistoj en Hokkajdo

Estimataj kaj karaj gekongresanoj

Dum vi estos kongresantaj en Makomanai, mi estos kongresanta samtempe en Hamburgo, germana urbo. Leginte la programon de via kongreso en Hokkajdo, mi tre ĝojas, ke ĝi havos filmoprezentadon kaj eĉ infanvartejon. Bonege estas ankaŭ, ke edzino aŭ fianĉino ĝuos rabaton, kio neniam okazis en la kongresoj en Hokkajdo.

Pro tiuj progresemaĵoj mi esprimas koran gratulon al vi kaj deziregas pluan evoluon.

En Hamburgo -- kiam vi estos kongresantaj -- mi certe estos babilanta kun s-ro Aizaŭa el Sapporo. Se multaj el vi sekvus lin, kiom ĝoja mi estus!

Plene ĝuu la hokkajdan kongreson kaj mi esperas, ke mi aŭdos de vi pri la rezultoj.

Amikine via

Akiko Ŭusink-Nagata

LEONTODO n-ro ekstra

「北海道エスペラント運動小史」復刻再版ができました。

ファックス印刷、38ページ、送料別 2.00円、〒55円。

1935年までの北海道におけるエスペラント運動を各地方毎にまとめたもの。(Leontodo n-ro 50参照)



第38回北海道大会会計報告

収入の部

参加費(会費、宿泊、食事を含む)	85,000円
不在参加費	11,200円
個室代(希望者のみ)	6,400円
寄付	29,600円

内訳

10,000円 国兼信一	1,000円 相沢治雄
6,000円 吉田 榮	600円 早川 昇
5,000円 石黒彰彦	平田岩雄
2,000円 山賀 勇	笹村貞雄
1,100円 市川 忠	わしおをいこ
1,050円 木村喜壬治	石黒 実
	250円 清水 寛
	100円 水上靖子

大会準備金(HELから) 10,000円

計 142,200円

支出の部

会場使用料	22,300円
宿泊・食事	61,540円
通信費(封筒、切手、往復ハガキ、電話)	8,620円
映画 ANGOROT	6,300円
記念写真代	5,770円
大会記念品	14,960円
雑費(カセットテープ、謝礼その他)	4,690円

計 124,235円

残高=(収入)-(支出)=142,200-124,235  
 =17,960円は五用Lの一般会計に入れました。

## 北海道エスプレントセンター発足

札幌にも運動の本拠地たるべき独自の「家（部屋）をつくろう」と、Leontodo n-ro46(1972)で呼びかけて2年。ついに私たちが、道内はもとより、本州の同志からのあたたかい援助をいただき、6月23日、正式に「事務所開き」をすることができました。古い木造の下宿屋さんの2階2間（4畳畳と4畳）で、家賃は約1万円。地下鉄北24条駅から歩いて6分位のところにあります。宿泊も可能です。ただし、備品、調度品の少ないは、すべてこれから揃えなければなりません。机、テーブル、本棚、寝具、冬になると石油ストーブといったものが必要です。現物で提供できるものがあれば、ぜひそれを、または、備品を買うためのカンパを募っていますので、ご協力ください。

現在維持会員は、以下の20名。

相沢治雄、大友頼一、奥田スミ、河口政子、北島謙（苫小牧）、木村喜壬治、黒川憲美子、児玉広夫、沢谷雄一、清水寛、菅田郁子、中里和夫（千歳）、浜田国貞（浜中）、平田岩雄（室蘭）、藤村忠明、星田淳（苫小牧）  
松岡耕二（東京）、水上信子、山賀勇（小樽） 泉 稔 博（天竺）

6月23日、維持員総会を開き、「センター規約」を採択しました。また、「センター」の委員には、河口、黒川、児玉、沢谷、清水、菅田、藤村各氏が選ばれ、委員長（「センター」代表）には、藤村忠明氏が就任。総会の席上、これからの運営、維持について、いろいろ話し合われました。電話もつけたいのですが、借券は別としても、工事費約8万円かかります。冬には暖房の費用もかかるので、もつと多数の維持員が必要とされます。

「センター」には、今のところ当直者を置きませんので、「センター」への来訪、使用、宿泊希望のときは、前もつて、センター委員の方へ連絡してください。[10月7日より、土・日・祝日を除いて、18:00~20:00 当直者を置いていますので、お五 響くください。]  
H E Lの事務局も「センター」内に開設されます。（H E Lの sidejo は今までどおり）

「北海道エスプレントセンター」住所

065 札幌市北区北21西2の19

振替口座 小樽 22427

拠出する維持員により運営、維持される。

維持員は、「センター」の鍵を持つことができる。

維持員会費は、1口月額 500円とする。

第4条(財政) 「センター」維持の財政基盤は、維持員会費と寄付による。

第5条(機関) 「センター」は、その目的達成のそめて、センター維持員総会およびセンター委員会をおく。

1. 維持員総会は、センターの最高機関であり、3カ月に一度定期的に開かれる。

総会は、委任状を含めて、維持員総数の過半数で成立する。

2. センター委員は、維持員より選出され、センター委員会は月に一度定期的に開き、センターの管理運営にあたる。

3. センター委員会は、委員長を互選し、総会での承認を得る。

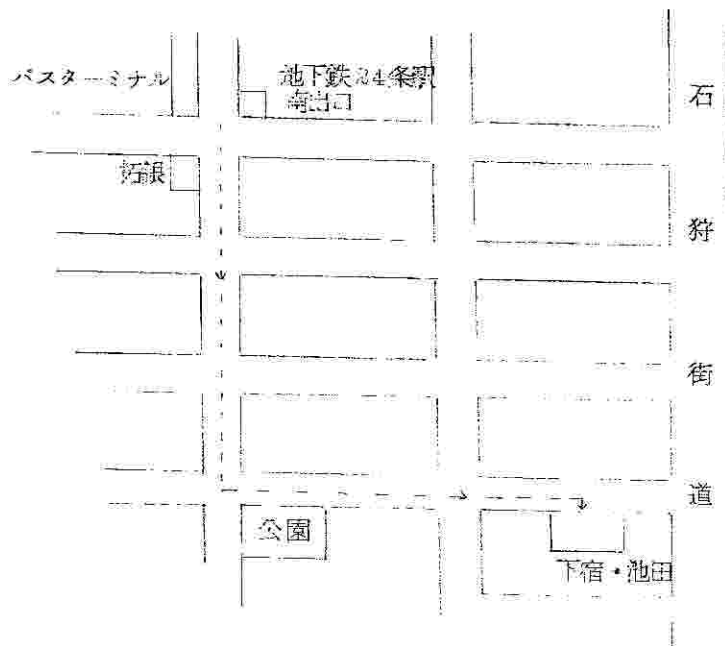
委員長は、「センター」の代表者とする。

### ☆☆☆「エスペラントセンター」こぼれ話☆☆☆

◎ 「センター」は3階の道路に面した部屋にあるので、さつそく窓ガラスに「北海道エスペラントセンター HOKKAIDA ESPERANTO—CENTRO」と紙に書いて張り付け、看板を出した。どなきかベニヤ板にでも正式の看板を書いてくださらねか……

◎ 6月22日(土)、中央タイピスト学院での例会のあと、「ボーナスも出たことだし、わがCENTROも、明日めでたく『事務所開き』を迎えることとなつたので、ひとつ前夜祭でもやろう」とは、4月に就職してから、久しぶりに顔を見せた某氏の提案。一同異議ナシ……というわけで、夜のススキノへ。一パイきげんでワイワイガヤガヤしているうちに終電車の時間もとつづくに過ぎ、2人ぼとのsam欽deanoは、「センター」にこやつかいになつた。

◎ 6月30日(日)、『事務所開き』の祝いとO氏夫妻がウイスキーをさし入れた。日頃酒豪と名の高い某氏は、北海道におけるエスペラント運動史上にのこるとの快挙のためか、今までに例もなく、この美酒に酔い、ついにダウン。結局「センター」に一晩泊り、翌朝まつす



### 「北海道エスペラントセンター」規約

第1条(名称) この組織は、北海道エスペラントセンター(HOKKAJDA ESPERANTO-CENTRO)という。(以下「センター」と略称)

第2条(目的) 本「センター」は、エスペラント運動のさらに一層の質的、量的進展のために働くすべてのエスペランティストに、その活動上の便宜をはかり、北海道におけるエスペラント文化発展のための本拠地とすることを目的とする。

「センター」は、使用規定(別項)に従つて、以下の目的のために利用できる。

- 1 各グループ、ロンドが主催する研究会、学習会、交流会、講演会などの会場
- 2 独自の例会場所を持っていないロンドの例会場
- 3 大会、合宿、講習会、展示会などの諸行事のための準備
- 4 各種エスペラント団体の連絡所
- 5 エスペラント図書、機関誌、運動関係資料の整理、保存および公開
- 6 来札したエスペランティストのための宿泊所

第3条(維持員) 「センター」は、その目的を支持し、毎月一定額を

く職場へというハメになつた。

◎ さて、一部には、「北海道恵酒平乱徒センター」というのが正しいのではないかとの声も。

### グロスマン夫妻来札

8月26日 アンドレ・グロスマン夫妻が、東北大会出席のあと来札。同日札幌エス会は夫妻を囲む夕食会を開き、会長以下7名が参加、ひとときを楽しくすごしました。奥さんは元TEJA(東京青年エスペラント連合)の活動家。5年前にフランスでEsperanto(=Edzperanto)により国際結婚。2才と6カ月になるdu infanojを夫君の両親にあずけ、このたび奥さんの実家のある旭川市へ、ダンナを連れて「里帰り」というわけ。家庭での共通言語はもちろんEsperanto、上の子供はesperantoとフランス語という典型的verda hejmo。

歓迎会に来ていたO氏、アンドレさんが自分の息子と同じくらいの年齢というので、喜ぶことしきり。ビールのホロ酔も手伝つてか、まず自ら卒先して日本の歌を披露、そしてアンドレさんにもフランスの歌を所望。アンドレさん、あとでkafejoで、札幌で会つた同志の名前を手帳に記入するとき、O氏の職業としてkantistoと書き込む……

\$\$\$\$\$\$\$\$\$\$ EL NIA LETERKESTO \$\$\$\$\$\$\$\$\$\$

Wakkanai, 1974 08 09

Estimata samideano,

Antaŭ ĉio mi devas peti pardonon, ĉar mi ne povis ĉeesti la kongreson. La 20an de julio, mi sentis kaptur-niĝon, pri kio kuracisto diagnozis, ke mia sangpremo alta aŭ malalta signifas, ke mi estas en ne trankvila stato. Kaj mi estas en danĝero, do mi ĉesis vojaĝon por ĉeesti la kongreson. Min ĉagrenis kaj bedaŭrigis, ke mi ne povis partopreni ĝojon kun karaj samideanoj.

Mi jam estas maljuna, konsekvence mia sano farĝis malforta, kaj ankaŭ mia cerbo ne funkcias aktive. Tian sorton neniu povas eviti, sed mi penadas fari kvazaŭ junulece, por antaŭgardi min de kadukiĝo. Nun mi atakas kontraŭ mia malsano. Baldaŭ mi reakiros bonan sanon. Ĉiam mi fartas, pensante, ke mi faru almenaŭ iom taŭgan por Esperanto.

Tute via

K. Iwamoto

Fraŭlino Alicja に随行して (1)

椿 陽 考 (札幌)

9月10日の朝、珍らしく目覚まし時計の鳴る前に起きた小生の最初にしたことは、前日に勉強したエス会話のヒアリングの復習であつた。Alicjaの来道を知らされて2週間目のこの日、果してこの間の猛勉強がどれだけ効を奏するか、はたまた彼女にとつても小生にとつても満足に行くような案内ができるかということが3時間後に試されようとしているのである。思えば軽い気持ちで引き受けた小生だが、この日の気持ちは受験生のそれと同じ、いや入試のときだつて、小生の経験からいうとこれほどまでに緊張はしなかつたように思う。

Esperanto-centro に寄つて緑星旗を携えた小生は、勇んで列車に乗り込んだ。目ざすは千歳空港。あいにくとその日は小雨混じりのぐずつた天気であつたが、心の方は緊張しているわりには、やけに爽快といつた複雑な気持であつた。

空港ロビーでAlicjaの到着を待つ小生の気持は、これを複雑。これまでの複雑さに加えて、*Kia ŝi estas?* ということが頭に浮んできたのである。というのは *mi neniom konas pri ŝi, nek eĉ unu foton de tiu fraŭlino mi vidas* であつたから、小生はありつたけの乏しい想像力を動員してみや。前日、沢谷さんから *belstata* であるという情報を得ていたのを参考に、ミス・ポーランド嬢の青写真を案出。同じロビーの *aliaj atendantoj* はというと、珍奇な旗を掲げ、そわそわしている小生をこれまた珍奇な目で観察(?)。それに気付いた小生は、これぞ格好を宣伝の場といわんばかりに、緑星旗を一段と高く掲げて *atendatino* というより *esperantino* の到着を待つた。

到着の *anonco* の数分後、バラバラと出札へと向かう乗客の姿が見えだした。ところが、出札を通つて *atendejo* へと入つて来る人々はみんな *japanoj* それらしき彼女の姿はなかなかあられもない。さては前日本州を襲つた台風に怖気をなして北海道「進功」は諦めたかなと思ひ急に全身の力が抜けるような気がした。まさにその瞬間、ゆつたりとした *robo* を身にまといつた *belulino* の姿が目に入つた。ようこそ北海道

へ！ 小生が緑星旗を示すと果してそうであつた。Fraŭlino Alicja Michewicz は明るい顔をのぞかせてほどなく atendejo に入つて来た。

さあそれからが大変である。まず小生が最初に lerni parkere した記念すべき Esperanta frazo である "Mi tre ĝojas konatiĝi kun vi, fraŭlino." を彼女に投げかけた。彼女はそれに答えて自分の名を紹介した。Eperanto が Internacia Lingvo であることを実感した瞬間であつた。ところが、彼女の話のスピードは小生が今まで骨折つて勉強した "Ĉu vi parolas Esperante?" の sonbendo のそれよりも pli rapide であつた。さつそく "Ankoraŭfoje" を使用それと同時に、いつたいこの先この vorto を何回使わなければならぬのかと考えると、それまでの昂奮も急にさめて、少し不安になつてきた。彼女は「北海道はとても寒い。たつた／時間の距離でこうも違ひのかしら」と言つた（ようだ）。それに対して小生はただ "Jes" とだけいつたい今まで勉強したことはどこをいつてしまつたのか。なげない気持を振り払うかのように、小生はここへ来る途中、列車の中で懸命に暗記した旅程をかなりの早口で捲し立てた。これが彼女に通じたかどうかは今もつて分らない。"Bonvolu sidiĝi" と言つて彼女の傍のいすにすわつてもらい、さあこれから Ki~ ? の連発といふかと思つた時またまた早口で何か言われた。出鼻をくじかれて小生の二度目の "ankoraŭfoje" が口から出かけたのだが、それより早く、あたりを見渡していた彼女は "pardonon" と言つて足早やかに小生から離れて行つてしまつたのである。彼女はいつたいどこへ！ と思つて目を見張つてみると、彼女の行く先に鼻のマークが見えた。"すべて" を理解した小生はここでホットなめ息。それ以後 necesajo という単語は完全に小生の頭に粘着したのである。こんを調子で小生の gvidaĉo は始まつた。

彼女が無事に到着したことを電話で沢谷さんに報告したあと、期待どおりの belulino を伴つて空港の Restracio へ昼食を取るために入つた。彼女は日本料理がとても気に入っているとみえて tipa japana manĝaĵo を希望。それを聞いて小生がとつさに頭に浮かんだものはカッドン (Ĉu tio ĉi estas tipa japana manĝaĵo? これは今になつて小生が自問しているところ)。さつそく彼女の konsento を取つて注文した。そして彼女が非常に巧みにはしを使つているのに気がつ

いて聞いてみると（もちろん Esp で）、ブダベスト大学で、同じくベトナムからの留学生から習つたとのことであつた。

さて、千歳から日高三石までの 2 時間半も小生にとっては試練の時間であつた。列車はさほど混んではいなかったが、並んで座れる座席がなく、向い合つて座つた。並んで座ろうが向い合つて座ろうがどうでもいいことのようにだが、果してそうでもなかつたのである。初対面、とくに美人の部類に属する人と面と向い合つて座るということは、気の弱いてれやの小生にとっては非常に苦痛（うれしい苦痛？）を伴なりものである。話しがはずんでいる間はいいが、ある瞬間、ふと話しがとぎれるとなかなか次の言葉がでてこない。ましてや Esperanto ではなおのことそりである。しかし状況が幸いして（Esperanto を話せる人間は彼女のほかに小生を除いて誰もいないという列車内の環境）、比較的 konstante に Esperanto が口をついて出てきたことは今もつて大きなナゾである。しかしそれも最初のうちで、1 時間ぐらゐすると、話題（注—— エスペラントで小生が表現できる話題）もつきて（またこれは彼女のむずかしい質問に Esp. で答えるには限界にきたことも意味する）、さあいよいよ顔を見合せておきまりのお見合い席（昔風の）が始まるのかと思つた（実際始まつていたのであるが）とき、これまた幸いなことに彼女がコックリ、コックリやり出したのである。Ĉu vi estas dormema? と聞くと、昨晩は東京の gesamideanoj と夜つびて話し合つたそりで 3 時間しか眠つていないとのことであつた。その後の約 1 時間は彼女の寝顔をじつくり拜見。しかしその時彼女が本当に眠をくたつたのかどうかは定かではない。いずれにせよ昔風のお見合い席から解放されたことは確かであり、新たな事実を発見したことも小生にとっては一つの喜びであつたかも知れない。それは彼女の寝顔はまさしく 20 才の顔であり、それまでの彼女の存在は日本から数千キロも離れた社会主義の国から若い女性がたつた一人でやつてくるなどという、小生から見るとよほどの怪物、いや失礼、“できぶつ”な女性としてあつたし、事実千歳であつたときの印象ではどうしても 20 才には見えなかつたのであつたが、その時の寝顔は実際小生をはつとさせ、彼女に対して何とも言えない親しみを覚えさせたのであつた。（つづく）



第4回秋の合宿は  
アリーツアイとともに

9月/4日から/6日までの3日間、今年も小樽市朝里川温泉の「友愛山荘」で開かれました。ブダベスト大学(エスペラント学部のある世界ただひとつの大学)に留学しているポーランドの20才の studentino Alicja Michiewicz さん、東京から西川晴さん、関西から佐野寛さんをはじめ総勢22名が参加。クラスは入門(藤村忠明)初級1(北畠瞳)、2(那須博文)、中級(西川晴)、それに Seminario の小人数5クラス編成。入門、初級1、2は「La Teksto Unua」、中級は「Leteroj de L.L.Zamenhof」から有名なミツンヨ一への手紙(1905-02-2/)を、Seminario では「La Vjetnama kaj ĝia Utiligo por la Supera instruado en V.D.R.(1969年ハノイ発行)をテキストに。

第1日の夜は、アリーツアイが母国「ポーランド」について、スライドを使つて約1時間のお話し。スライドのあといくつかO氏が主として質問、そして「Ĉu vi havas amaton?」とO氏に正面から質問され、さすがのアリーツアイも少々赤面し苦笑しながら「Ne!」と答えた。ここはO氏の「心臓勝ち」というところ!

第2日目の夜は特別講義。その1は合宿村村長兼小使の沢谷雄一が「Zamenhof と初期の運動」と題してZamenhofの時代、エスペラント運動と理念的背景などについて話すはずであつたが、結局のところ「文献案内」に墮し「本」の宣伝に終つた。(本屋の話の「意図」を汲んで、エスペラント運動の理念的思想的背景、歴史、社会運動、文化運動的側面に、aŭskultantoj の中から/人でも興味を持ち、勉強してくれる人がいたら、感謝カンゲキ雨アラレ、講師としての役割を全うしたことになるのだガ。。。)

特別講義その2は、佐野寛さんの「漫画教室」。これは初心者もベテランも皆んなそろつて楽しめたプログラム。「名講義」と大好評を博した。講義の序論のところで、マンガにおける国際語思想として、赤塚不二夫の「ワンペイ」を例に取つたまではよかつたが、これの即席エスペラント寸劇実演を試み、手まわしよく配役の指名まで用意してあるとは恐れ入ツタ! さすがエスペラント劇団 Rafano の団員西川氏もピツク

り。もつともこの配役指名の裏には東京は Esperanto—Domo の samideaninoj (kiuj tiujn tagojn vojaĝis en Hokkajdo por formangi(?) lokajn bongstafojn, dum ni kunlogadis!) のイレ知恵があつたとか……。かくてハブニングが起つたが、さすが西川氏は堂々と役柄を演じきり拍手カツサイ。ナルホド使つたテキストは「エス・マンガ入門」(コピー版50円)と表紙には日本語で書いてあつたが、Esperanto では「VOJO AL MOVADO KOMIKA」とタイトルが付けられており、「マンガ」とは「絵」に限らないことがわかつた。講義の付録として、佐野さん訳の楽しく愉快な「おばけのうた」がこの合宿で初めて世に出された。(本誌に楽譜付でのせた) この歌の komikema な替え歌は、12月のザメンホフ祭に発表されるであろう。特別講義が終つたときには、時計は9時半をはるかに回つていた。友愛山荘の管理人さんに頼みこみ、約30分山賀先生サン入れの niero で祝杯。10時半第2日目の公式プログラムは終了。dormoĉambro では12時までエスペラント・カルタ取り、ワイワイ gaja, gaja あるいは静かにチビリチビリ……。 (山荘の管理人さんは健康管理の立場から12時を過ぎると dormoĉambro の電源をバッチリ……。翌朝は気を使つて、7時半に起床のレコードをかけてくれた。6時45分と指定していきのだけれど……。ここの管理人さんは、他の「青年の家」やその類と異なり、理解があるし、団体の自主性を尊重してくれている。秋の合宿会場はここに定着したようだ。来年もまたここで……。)

第3日目の午後は、星田淳さんによる特別講義その3、「アジアにおけるエスペラント運動」と題して具体的体験をおりませでのお話し。一般的に言つて、組織的運動の形態を取り得ている国は奇しくも「漢字文化圏」の国々だけという指摘があつた。(要旨は、うまくまとまると LEONTODO に出すとのこと。)

第3日目の午後は前日の夜遊びの疲れが出た人も。。。。。

今回も「朝のおしやべり」制度が採用された。(朝食後30分間) 初心者の人にとっては「検事の取調べ」を受けているみたいという声も。第1回目は、初対面であり、入門、初級クラスの人には緊張の連続だつたかも……。アリーツィアは matena bablilado を他の合宿で心得てかり、Si ekupis bonan lokon。。。。第2回目ともをると、はじ

めての人もだいたい慣れたよりす。5分間たつても、まだ話がハズミ熱中している組も……。主催者側の立場から言えば、matena babilado にせよクラス編成にしろ、参加者の顔ぶれと実力を考慮して準備しなければならぬので、一部には十分満足させきれない点がある。20名程度の少人数であるだけに、難しいところがある。部分参加の人には、十分楽しみを味わってもらえなかつたであろう。講師陣を除いては、ほとんどの人が初めての合宿体験であつたろうから、初日はコチコチになつていた人が多かつたかも……。できるだけ学習時間を確保しようという方針でプログラムを組んだので、自由時間が少なく、いつも拘束されていた点は、たつた3日間(正味2日間)という短い合宿期間で、最大の勉強の成果を目ざすからにはヤムを得ない……。5日間ぐらいの規模で合宿ができると、1日5時間の拘束時間であとは自由時間ともできるのだが……。参加者が全員十分テキストの予習をしてきているわけではないので、予習の時間ぐらい合宿の日程に入れておくのも、あるいはよいのかも知れない。講師の一方的な説明では勉強にあきてしまうこともあるだろうから。(とくに初級クラスであれば……)

さて参加者側からの意見は？

緑星堂——T E K Oの書籍即帯は、現金で総額2万8千円の上々の売り上げ。そのほか月賦で1万7千円も買い込む人もいた。

同時期に開かれている恒例の北九州エスペラント会の合宿“エスペラント天国”と東京のロンド共催による府中市での合宿と祝電の交換があつた。

SUKCESU NORDA KUNLOGADO. VIVU ESPERANTO—CENTRO  
GIS REVIDO ALICJA SUDA PARADIZO (北九州)

KUN AMIKECA SOLIDARECO SALUTAS EL TOKIO SAMTEMPE  
KUNLOGANTA. TOKIA ESP—ASOCIO (東京)

講師を別にすれば、札幌以外の地区からの参加者が少なかつたのは残念である。(沢谷 雄一)



秋の合宿に参加して

啓商/年 高藤燈美

/日目 /4日 土曜日

◎汽車の中でのできごと —奈良さんとの対談—

車中の時間のほとんどは、奈良さんが昨日案内をしたというアリーシャの話でもちきりでした。彼は、アリーシャのことをほめることしきり、ゴリラと言われたそうではありますが・・・彼は、それがけつこう楽しそうでありました。(注 ゴリラとは、タバコをすう人のこと)

彼女は、とつても美人で博識とのこと・・・会うのが楽しみ

◎f—ino アリーシャ・ミケーヴィッチ

—Esperanto estas malfacila—

奈良さんがほめるだけあつて、とつても美人

話しはしたいけれど・・・

私の語学力では・・・というより勉強不足で、何もきけずに、ただあせるばかり。

私は・・・いたがまれになつて、とうとうその場をこつそりぬけ出してしまいました。以後、私は、彼女に何か話しかけられからどうしよう?・・・なあんて思い始め、とうとうアリーシャ恐怖性となつてしまつたのであります。(なんともをさけない話ですが)

◎SCIURO は、ワン・ツー・マン!!

Mia gvidanto estas S—ro NASU

私の勉強不足で、先生にはとつても、とつてもめいわくをかけてしまいました。結局 SCIURO のテキスト "Barbro kaj Eriko" ができずに終つてしまつたんですから・・・

でも、とつてもおもしろい授業でした。

もつとも、/時間のうち、辞書と首つびきの時間が50分、訳が/0分なんていうなさけないことのくりかえしでしたけれど・・・

でも自分ではがんばつたつもりです。つかれたなあ それにしても

2日目のお昼の授業の終りに先生と大合唱会

学校の芸術で音楽を選択している私

その寒方がどれだけ発揮されたか?

◎カード・ゲーム —西川さん、椿さん、藤村さん—

その夜は、この3人の男性と、カード・ゲームをいそしんだのです  
西川さんから、アメリカン・ページ・ワンに非常によくにているドボン  
というゲームをおしえてもらう

ワーツ！ キヤーツ！！

とさわぎまくり・・・勝負あり！

私にニンマリ 勝利の星をもつて笑つておりました

やはり女性は強かつた！。

2日目 / 3日 日曜日

◎朝のおしやべり

これも楽しかつたな・・・と思つた学習の一つ

でも質問が出てこなくて困りました。

答える方が楽なんです、なぜか・・・スラスラとまでいかなくとも  
エスペラントがちゃんと答の時には出てくれるんです  
ちよつぱり、検事と被告人みたいでしたけれど・・・

◎全体講義 —ESPERANTO 漫画教室—

赤塚不二夫作 ワンペイの配役は・・・

ワンペイ 西川さん

この方、さすが TOKIO では ESPERANTO 劇の準主役をやつているだけ  
あつて演技力はバツグン！ さらに活躍されることを期待する。

キザな犬 ワガ初級講習会 gvidanto の沢谷さん

彼に役者としての実力が十分についたと思われまふ。

SEB でも ESPERANTO 劇の劇団を作り、そこで主役をされてはいかが  
でしょうか？

—啓北商業演劇部員評—

◎新案特評 —ESPERANTO カルタ

佐野さんが関西からはとんできた ESPERANTO カルタを男性群の部屋で  
始める。

十二支カルタ 私は全々わかりませんでした。清水さんが大変強くて  
ノ人で何十枚もとつて奮闘していたのが印象に残つています。

LA TEKSTO UNUA カルタ これは私でもとれました。だれもわから  
なかつた札に、KAFEJO ESPERANTO というのがありました

これは、袋があつて、そのの屋根に「お茶エスペラント」と書いてある

んです。

フルーツ・カルタ　これも私はダメ

もつばら見る方にまわつてました

でも、いい所で、電気を消されて終了となつたのは、ちよつと残念でした。

その後、沢谷さん、西川さん、権さん、清水さんを中心に秘密の討論会。私と宮沢君とはもつばら聞く方にまわつておりました。

ESPERANTO—MOVADO から POLITIKAJ PROBLEMOJ まで、延々2時間半、話しが続きました。

私は、清水さんのとなりで小さくなりながら、熱心に聞き入りました。というのは、ESPERANTO に関するこんな話しは初めてでしたし、POLITIKAJ PROBLEMOJ までもが ESPERANTO に関係あるという事に驚きを感じていたからです。

私には、多少むずかしかつたのですが、ねむい目をこすりこすり聞いていたかいたつたように思います。

合宿での思いがけない収穫だつたと思います。

3日目　　／　3日　　月曜日

◎タメ息

夜が明けるときまでおきていたせいで、ねむくて・・・それに、多少疲れがたまつた様子

ちよつびりつらい／日でした。

◎ARANEO　　— ESPERANTO ESTAS TRE MALFACILA—

私の gvidanto 那須さんが急用で帰つたため、私は、藤村さんが gvidanto の ARANEO に移動

時には、復習も必要だということが身にしみてわかりました。

それと、私に ESPERANTO がまだちゃんと身につけていないということが・・・

たいへんいい勉強になりました。

合宿　— エスペラント — 私

私は、今年の初級講習会からエスペラントを始めました。

ほんとに、まだかけ出しです。

そのために、いろいろ gvidanto の方にはめいわくをかけてしまいました。

ほんとうに申しわけないと思つています。

私は、この合宿を機会に、エスペラントの勉強に本腰をいれ始めました（ある方は、英語にもつと力を入れるようにと申しておりますが）エスペラントをはだで感じる事ができた・・・というように感じて合宿に参加してよかつたと思つています。

私は、エスペラント運動については何一つ知りませんでした。当然知らなければいけないはずのサメンホフの運動についてですら知らないのです。

でも、少し、ほんの一部をおそおつきりして、とてもそちらの方にも興味をわいてきたのです。

いろいろ収穫の多い合宿でした。

私は、まだ高校一年です。例に關しても、まだまだ未熟な私です。

でも、そんな私なりに、エスペラントという語學の理解を深めていくために、より一層努力していきたいと思つています。

この合宿を足がかりとして・・・

000 000 000 000 INTER NI 000 000 000 000

\* La 15an de septembro edziniĝis s-ano Sugata 1.  
Sinj novaĝ nome k adreso;

高田 郁子 062 札幌市南区南 37 西 10, 私利類社宅

"La Gorgonoj" 紙の編集・発行はそのまま続けるとのこと。

\* 住所変更 \* 女性会員のみを2句、原稿を送ること!

河口 政子 083 池田町東台 55!

清水 寛 065 札幌市北区北 1? 西 3, 古屋アパート

tel. coll) 731-3551

### 編集後記

\* n-ro 55 は今年一年間の活動報告集みたいな趣を呈して結構。ROや La Movado の方に先に記事が出て... 年 3~4 回発行ですから、いたしかたない問題は本誌だけでしか運動とのつながりがない人に生ずる。大きな問題! "La Gorgonoj" 紙は今年はずてに 5~9 号発行。本誌の間をうめてもらいました。今年に印刷物の発行回数においては、ここ数年最高。おかげで HEL, SES とも財政的にピンチ。  
\* 異状インフレで、ここもかじりかじり大巾値上。JEI もついに危機感の叫びかけ。  
\* ハンブルク"世界大会"日本総領事は "... エスペラントの発展のためには日本政府も応援してきたよとブツたそうさ。 ("La Vojto Senlima", n-ro 35, 1974) 佐藤さんが「ベル」原和寛に頼り、同誌ロレカガシバツラいられる世の中なのだから、"アイエウ" というものなの



poez. Maki minori  
 trad. Sano Hiroši  
 muz. Kosibe nobuyosi

Fantomo estas trompa.

(おほけなんてないさ)

kuntakte



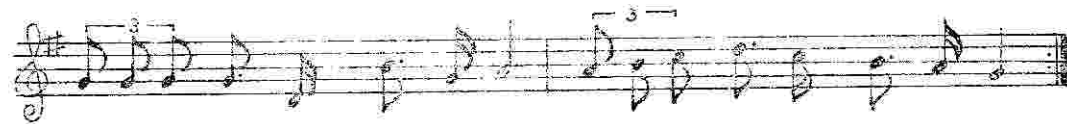
i. fan-to-mo es- tas trom- pa fan-to-mo es- tas sen- sen- ca  
 おほけ なんて ないさ , おほけ なんて うそさ



nur dorme-man- te sen- ĝe, e- ro- se pov- os vi- di ĝin  
 ねーほけ だ じ と ぬ , おまう みえ た の さ



sed i- o- me- te ja i- o- me- te an- kaŭ mi- 'stas ti- man- ta  
 さいと ぬと ぬと ぬと ほく ぬて こわい ぬ

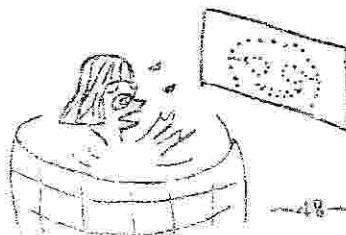
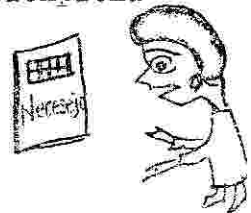


fan-to-mo es- tas trom- pa, fan-to-mo es- tas sen- sen- ca  
 おほけ ぬて ないさ , おほけ ぬて ぬ

1. Fantomo estas trompa, fantomo estas sensenca  
 nur dormemante senĝe, erare povas vidi ĝin.  
 Sed iomete ja iomete ankaŭ mi 'stas timanta,  
 fantomo estas trompa, fantomo estas sensenca.



2. "Fantomo-lando estas jen, de fantom' ĝi 'stas plenplena"  
 post fabelo tia, iru mi en vartejon.  
 Sed iomete ja iomete ankaŭ mi 'stas timanta,  
 fantomo estas trompa, fantomo estas sensenca!



E N H A V O

	paĝo
Renkontiĝo kun Esperanto.....Ter ISHIGURO.....	1
ハンブルグにおける世界大会参加記.....相沢治雄.....	3
ベトナムからの代表団来日延期.....	10
大急ぎ"リ連"一周・エスペ란チストに会ひの記.....大友鞆一.....	12
最新刊紹介"POR FORVIŜI MEMORON PRI ŜI".....	23
読書家内 "MAS IN MONDO".....那須博文.....	24
第38回北海道大会報告.....	25
北海道エスペラントセンター発足する.....	33
グロスマン夫妻来札.....	36
EL NIA LETERKESTO.....	36
fraŭlino Alicjaj=随行者(1).....椿陽考.....	37
第4回秋の合宿.....	40
合宿に参加して(1) 山口保子 (2)高藤燈美.....	43
Fantomo estas trompa.....trad.H. Sano.....	48

LEONTODO n-ro 55

1974 年 11月 15 日発行

発行所 北海道エスペラント連盟

060 札幌市中央区南2.西4.中央タイピスト学院内

TEL 251-4750

振替口座 (小樽) 17075

編集 Sawaya Y.

tajpis Kitabatake H. helpis Ŝibata Ŝ.